

- 利用者について
 - かかりつけ医の指示事項・留意事項を把握しておく
 - 利用者が入院にいたるリスクをかかりつけ医や看護師に確認しておく
 - 利用者の受診医療機関と受診日を把握しておく
 - 「医療と介護の情報提供書（在宅情報）」を事前に準備しておく
 - 「わたしのきぼうノート」活用を勧める
- 入院医療機関について
 - 医療機関の連絡窓口（部署／担当者）を把握しておく
- 情報提供・連携について
 - お薬手帳、保険証を確認しておく
 - お薬手帳に名刺を入れておく（ケアマネジャー等連絡先記入欄の活用）
 - 入院時のお願いについて事前に伝えておく

利用者の基礎疾患やかかりつけ医（以外にかかっている医療機関）の把握、通院頻度、かかりつけ薬局などの情報を把握しておきましょう。日頃から診療所の看護師や病院のMSW、看護師と情報の共有をするよう心がけましょう。入院のリスク予測をしておきましょう。

医療依存度が高い方、認知機能に不安のある方については、必要に応じて受診時同行するなどして医師の見通しを聞いておくといいでしょう。



資料編（3）の「わたしのきぼうノート」を上手く活用しましょう。
本書9ページの「きたかみ医療介護の各相談窓口」で医師のアポ時間を確認しよう。

- 入院時支援
 - 入院を予定している患者が入院前から入院中の生活や治療、退院後の生活をイメージし療養できるように支援する
 - 入院前に得られた情報をもとに患者・家族のニーズを捉え、意思決定支援をする多職種と連携を図り早期に安心して退院できるようにする
 - 入院に関連する外来・病棟・関係部署への連絡をする
 - 入院時のADL・IADL、生活状況やどのような生活を送りたいか本人の意向を確認する。本人の意向を早期に得られることは、本人の退院後の生活をイメージするのに有用です

入院を予定している方へ、入院前から入院生活・入院後に、どのような治療過程を経るかイメージし、服薬の確認、褥瘡の有無、栄養スクリーニング等の情報提供と支援を行ないましょう。

資料編（3）の「わたしのきぼうノート」を上手く活用しましょう。

